

「建築の原点にかえる」

1. はじめに

今回のシンポジオンでは「明日の建築をめざして建築の原点に立ち返る」と題して、東海地区から 3 チーム、北陸から 2 チーム、関東から 2 チームが参加し、総勢 50 人で大いに語り合った。ここに、そのときの様子をまとめたので報告する。

2. 趣旨説明、栗原知子(福井大)

シンポジオンでは、各大学の皆さんとの交流は当然のこと実務者や研究者といった社会人との交流、専門の垣根を越えた種々の話とともに自分たちの活動を話しますとの趣旨説明あり。

3. 開催概要

日時：9月13日(木) 14:00-17:00

会場：名古屋大学東山キャンパス ES 総合館 ES034 講義室

話題提供学生：6チーム(大学研究室)、参加者 50 人

実施タイムテーブル (以降敬称略)

司会学生：菊地未来(関東学院大)、野田真士(福井大)

14:00-14:05 趣旨説明と実施要領 (栗原知子)

14:05-14:10 挨拶 (大森博司 大会実行委員長)

14:10-15:40 各チームの発表(30分/チーム、計5チーム)

15:40-16:50 語りあい(自由討議)

16:50-17:00 各チームまとめ、総括(高橋博久(元名古屋工大))



会場風景



発表風景

4. 各グループの発表

4.1 岐阜県中津川宿の住民を主体とした景観まちづくり活動

名古屋工大：木村陽子、青山享央、内田美沙、大村拓也、北村有希博、杉山祐里沙、谷英紀 (全員 M1)

本町(中津川)における松本研究室のこれまでの活動と近況プロジェクトについて発表が以下のようにあった。

2006年、中津川宿・落合宿・馬籠宿を対象として景観特性調査を実施。

2007年、中津川市において景観計画が策定。2008年、住民組織



ワークショップ

である本町中山道景観協議会が発足。住民主体のまちづくりが開始。2009年、街道沿い全82件の立面修景案を作成。コミュニティ施設白木屋の改修を実施。2010年、対象地区の路面・電柱・街灯・水路等の公共整備修景案を学官民で作成。現在は各要素の整備や設置工事が進行中。

4.2 Rethinking the Superblock 名古屋大学・メルボルン大学合同建築ワークショップ

名古屋大：杉村恵(M2)、前田千晶(M1)、牧村将吾(M1)、松永彩(M1)

2012年9月24日から10月9日の二週間、名古屋大学大学院の演習科目「建築デザイン実習(指導教員：片木篤、堀田典裕)」の一環として、メルボルン大学大学院生と一緒に行った建築デザインに関するワークショップを行った。名古屋大学から4人、メルボルン大学から16人の学生が参加した。第一週は、各大学チームが都市デザインに関する調査と分析をそれぞれ行い、第二週は、各自が建築デザインの提案を行ったとのことであった。

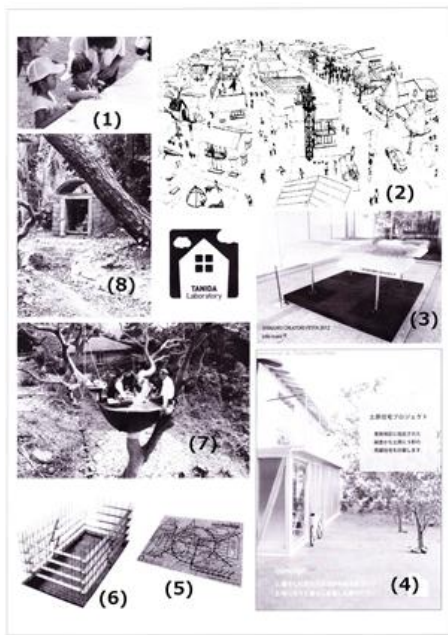


建築ワークショップの作品例

4.3 つくること、そのために考えること

名城大：西下昌平(M1)、山名史晃(M1)、澤村桃(M1)、佐々木朋之(B4)、佐藤優祐(B4)、川島正大(B4)、兼松啓(B3)

皆が幸せになることを目指して以下の(谷田研究室の)8つのプロジェクトの実施報告があった。(1)遊ビ学ビ：庄内緑地公園での河川伝統工法を学ぶ子供対象のWS。(2)IGUNEで紡がれるまち：子供達が作るシェルターを東北原風景の「いぐね」のように配置。(3)info-mate：新宿アートフェスタで室内に3万本の造花を植え皆さんにプレゼント。(4)土原住宅プロジェクト：名古屋市天白区土原に5件の売建住宅を産学連携で学生が設計。(5)icon nagoya mobip：名古屋の土産としてランドマーク的建築のモバイルを提案。(6)空し場：都市の空き地に関心をもってもらう。(7)島Café tree furniture：(佐久島ツリーハウス)：古民家を改修して店舗を建設。(8)記憶のハコ：佐久島祠(ほこら)



8つのプロジェクト、図中番号はプロジェクト

4.4 横浜市金沢区シーサイドタウンにおける外部空間の調査～人の行為と外部空間の関係～

関東学院大：内藤祐輔、藤田一真（全員 M1）

70年代に横浜各地で海岸を埋め立て造成されたニュータウンにおいて、(中津研究室では)成長期から10年20年30年後を視野に行動調査を行った。広いタウンのうち並木団地をまず対象として、外部空間がどのようにつくられていくかを調査し、心理要因も分析して環境要因を抽出できたとのことであった。

4.5 地域に合わせたライフスタイルを知り、価値を見直す～神奈川県三浦市での地域活動～

関東学院大：菊地未来 (M2)

水産業が最盛期だった頃の名残として、古い蔵がたくさんあり、その「KULA」を借りて、三浦の活性化の活動をしているとのことであった。



シェアスペースKULA

4.6 社会福祉法人「ハスの実の家」における暮らしと日中活動支援

福井大・福井県立大：野田真土(D3)、宗明日美(B4)

私たちは、「ハスの実の家」(1965年開設)の活動を通して、誰もがともに生活し生きていける地域社会でなければならないということ、人と人のつながりや人と街とのつながりが大事であることを改めて教えてもらいました。と力説されていた。

5. 語り合い(自由討議)

今回の発表で問題となっているキーワードを4つに分類し、テーマごとに語り合いをすることになった。テーマは、再生と活用、しあわせ、くらし、WSと交流、の4つである。以下に討議内容の一部を列挙する。

(1) WSと交流：個々の人がWSについて語り、イメージを共有し、WSが大事ということ結論とした。

(2) くらし：福井大の方の話をベースに福祉について、設計でも絵空事的设计ではなく暮らしを今一度考えていくべきと皆で思った。専門的な問題では個人の知識だけとらえないで現場の方々を含め多くの方向の人に聞くことは大変良いと気づいた。

(3) 再生活用：建築家の職能は今後どうかかわるか、話し合った。経験ある人、エネルギーある若い学生が今後をどうかかわっていくのか考えるべきと思った。

(4) しあわせ：プロジェクトを通してどんな幸せがあるかを考えた。人とかわかることはものすごい幸せである。かわり方は、大学だけでは収まらず、他の人(他大学学生)のものも大事である。

6. 終わりのあいさつとして 抜粋

高橋博久(元名古屋工大)、【課題を見つける課題のこと】

若い学生のみなさんの作品や提案を見たいと思ってこの部屋に参りました。皆さんの作業を見て、与えられた仕事かそれとも自分たち自身の仕事なのかによって成果は大きく異なるのではないかと思います。・・・中略・・・40年前のことですが、街に出て「課題を見つける課題」をやりました。現実の街の圧倒的な具体性の中で、それに対抗する建築的な提案には相当な力が必要です。10年間継続しました。私は頑張ったのですが、時の流れで旧来の箱庭的な課題に戻ってしまいました。

7. 学生のコメント 抜粋

●木村陽子氏(名古屋工大)

・・・個人としてではなく、松本研究室として活動内容を発表すると同時に、他大学の研究室活動を知る機会もなかなか無いので、とても貴重な時間でした。・・・大学生活の今しかできない、自由に見識を広げ活動していくきっかけとしても、今回のシンポジオンは有意義なイベントだったと思います。自由討議の時間も、プロジェクトの範囲を超え、初めて会う同世代と建築について討議することはとても刺激的なものでした。

●佐藤優祐氏(名城大)

各研究室の活動内容を知れたこと、その内容から生じた感情や意識を開けたこと、さらには4つのテーマに別れたフリートークなど、様々な内容が詰まった時間を過ごすことができた。・・・

8. おわりに

7つの学校の方々、精力的な発表ならびに活発な議論、ありがとうございました。今回の貴重な出会いや体験を今後に向けて励みにしていただければと思います。

最後になりましたが、皆さんのがんばりに期待しております。紙面の都合、皆様の熱い思いを満載できませんでしたが、詳しくは下記のURLのものをみていただければ幸いです。

<http://www1.ocn.ne.jp/~buna/chisiki/kyoryoku/s12.pdf>

(編集：栗原知子、野田真土、菊地未来、富樫豊)